

秋田大学教育文化学部附属小学校

公開研究協議会

2025年9月22日

自律した学習者が育つ 授業デザイン —「学びを楽しむ学び」へ—

鹿毛雅治

慶應義塾大学

教職課程センター／大学院社会学研究科

「没頭」: 熱意 + ねばり強さ

➤ エンゲージメント: 「今、ここ」での心理的没頭

深く学ぶ

課題に向き合う姿



知情意の一体化

学びの質の向上

感情的側面

■興味を示している ■充実感 ■楽しんでいる ■生き生きしている



認知的側面

■目的を自覚 ■方略を吟味 ■注意する ■チャレンジする
■細部まで丁寧で几帳面



行動的側面

■熱心に取り組む ■専念する ■持続的に取り組む ■試行する

集中

熱中

夢中

学びの充実感(学びがい)

何気ない興味 / 一過性の楽しさ



真剣な興味 / 学びの楽しさ

二種類のHappiness(幸福体験)

ヘドニア(Hedonia)

<快の喜び>

身体的、感情的欲求の満足
ポジティブ感情(一過性)

一過性の
楽しさ

ユーダイモニア(Eudaimonia)

<成長の喜び>

学びの楽しさ

達成を目指すプロセスにおける幸福状態

本当の自分、意味理解、質の高い達成、自己実現

学びを楽しむ学び (Active Playful Learning)

■ 子どもたちはどのようなときによく学ぶのか？

能動的で**集中** (minds-on)しているとき ⇔ 受動的

没頭しているとき ⇔ 注意散漫

情報に**意味 (意義)**がある (meaningful)とき

⇔ 情報がバラバラでまとまりがない

社会的な**関わり**があるとき

学びが**反復的**で、過去の学びが**統合**されるとき

学びが**楽しい**とき

学習に向かう習慣と態度の形成：学習の自律

環境

学習意図(●●しよう)

質の高い活動
(内的／外的)

達成プロセス
成果

エンゲージメント

ユーダイモニア
ポジティブ感情
の随伴

内発的報酬

質の高い心理的習慣化 例) 注意を向ける

体験の
繰り返し

質の高い信念・態度形成 例) 多面的な思考は重要だ

授業をどうデザインすべきか

北風型アプローチ

「させる」方法

指示する

やらせる

答えさせる

わからせる

太陽型アプローチ

しかけ

材

間接指導

環境を利用した指導

6つのC: 授業をデザインするために

Collaboration
協働

他者やコミュニティと協調する能力

Communication
意思疎通

聞く、話す、書くを支える確かな言語能力

Content
学習内容

ひと・もの・ことに関する情報の獲得

Critical Thinking
良質な思考

概念を形成するために情報を丁寧に調べて、エビデンスを使う力

Creative Innovation
創造的な新しい発想

情報を新たな視点から再構成し、そこから新しいものを生み出す力

Confidence
自信

成長マインドセットとGRIT(熱意+ねばり強さ)

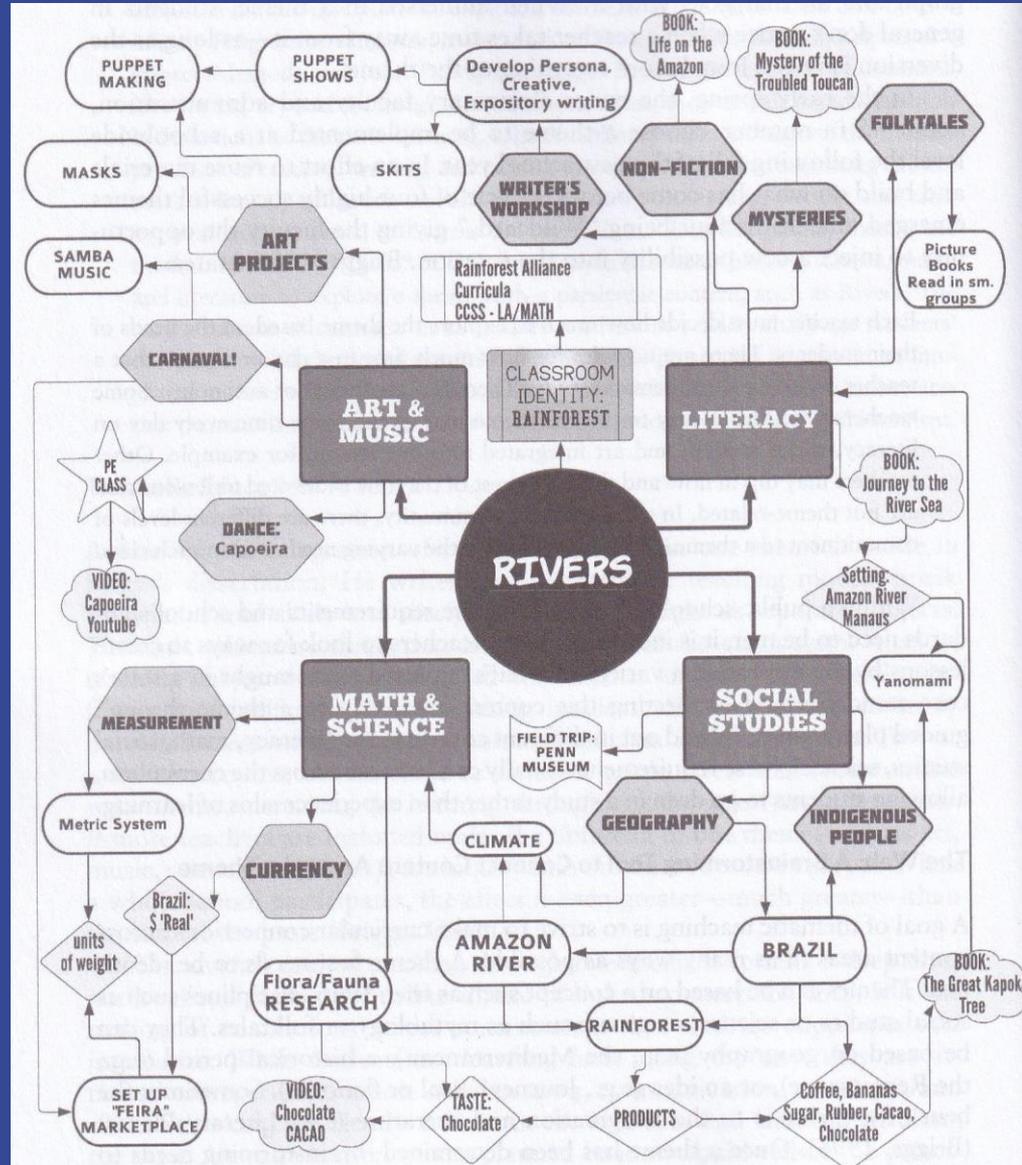
学習材研究

■ 学びの深まりに開かれた
単元構成

■ 「材」から学びの発展的
な展開(学びの深まり)を
あらかじめ予想(想像)する
←概念マップ

■ 学びの展開に応じて
カリキュラムが創発される

「創発カリキュラム」へ
(生成カリキュラム:
emergent curriculum)



参考文献

北風型アプローチ

太陽型アプローチ

エンゲージメント

ユーダイモニア

自己調整

習慣形成

態度形成

賞と罰

競争

非意識の知性

ポジティブ
感情

熱意

好奇心

意欲

鹿毛雅治著

モチベーションの 心理学

「やる気」と「意欲」のメカニズム

ほめれば本当に
やる気が出るのか?

より深い人間理解のために

MOTIVATION

中公新書 2680
定価1100円(10%税込)